

日時：平成28年6月25日(土)14：00～17：21
場所：多摩市立図書館本館 閲覧室

<p>基本構想策定委員会の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本構想では本館の計画とともに市全体のサービスネットワークを検討する重いテーマがある。もう1回増やしてはどうか。図書館協議会でも5回では少ないという意見が出ている。 ○8月上旬、11月あるいは1月上旬など議論の進行をみて開催を増やすことを考えてみてはどうか。 ○教育委員会にかかる前に、この委員会ですっきりまとめてはどうか。 <p>ヒアリングの進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヒアリングはどういう形で行うのか。 ○市民の皆さんが一堂に会して意見をうかがうと言いつけられない意見もあるのではないかと考えた。学校図書館司書などのグループごとに事務局とコンサルで意見をうかがう。 ○ヒアリングの周知はどのように行うか。 ○広報などの紙媒体では締め切りがあるので、図書館のホームページへの掲載と各図書館への掲示を行い、募集をしたい。 	<p>地域館の存続・あり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域館をなくそうという案が出ている。地域館がなくなってしまうと、借りられなくなる人や図書館に行けなくなる人が出てくるということも考えてほしい。 ○身近に図書館があるということが、多摩市の図書館の利用を支えているのではないかと。市内に効果的に分館が配置されてきたということの現れではないか。 	<p>奥行きのある開架室の蔵書展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の所在を固定していない。本館で借りて永山で返すと永山の蔵書になるということになる。シリーズ物を確認すると複本があるものでも全巻揃っているところはない、という状況になっている。 ○本館を再構築して開架スペースが広くなれば、資料を固定することを検討していく時期かと考えている。 ○調布市や町田市の地域館を視察して3万冊から5万冊の小さな図書館でも、その地域に生活する方に必要な資料があり手に取れると気づいた。そういった蔵書構成のあり方が多摩市にはないように思う。 ○必要な資料が手に取れれば予約をかけなくて良い。地域館の蔵書構成は地域館の職員が責任をもって考えるということではないか。 ○蔵書の質について、多摩市は館ごとの蔵書規模が小さいので専門的な資料を置きにくい。30万冊規模になると置いていくことになる。 	<p>地域資料の収集と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町田市などでは分館に身近な資料があると聞いた。 ○文化財保護委員をやっているのだが、多摩市には行政資料に良いものがたくさんあるのにPRができていないように思う。 ○『統計たま』や『ふるさとマップ』など図書館がPRできて、もっと利用してもらえれば。 ○パルテノン多摩の展示は大変良いと思う。
<p>サービスの成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予約受付件数の多さについて。多摩市の図書館は電算化が早かった。検索・予約が便利で貸出件数に制限がないことも理由かと思う。資料に館籍がないので、資料は各館をぐるぐる廻る、行った図書館の棚に求めている資料がなければ予約を入れる、ということになっている。 ○個人貸出冊数は第2位でサービスの成果としては大成功と言える。市民一人あたりでは12冊、全国平均が5～6冊なので倍の実績。新設の図書館では貸出が伸びる傾向があるが7～8冊、図書館としての総合力がないと2桁の実績には至らない。様々な課題はあるが多摩市はそれをクリアしている。さらに貸出を伸ばすか、貸出サービスのレベルに満足してコストを下げるか、方向性を決めないと議論が進まないのではないかと。 ○市民のどのくらいが本を借りているか、堺市では人口の9%、塩尻市は11%、多摩市は21%。多摩市は良く利用されている。 ○リクエスト件数が多いということは市民が主体的に利用している現れなので、マイナス面よりもどう維持していくかだろう。 	<p>貸出ニーズに応えるには</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の貸出のニーズに応えることも重視したい。できるだけ効率化していくよう考えたい。ICタグの導入で自動貸出や返却、書庫の出納も早くなるということも聞く。 	<p>選書・蔵書構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本館を開架20万冊規模とするなら、深みを持たせるような選書をしていく必要がある。現状はリクエストに応えることに日々追われていて蔵書構築を考えた選書に至っていないという課題がある。 ○収書方針は、分野ごとや分類にそってある程度レベルを決めて収書するというのがひとつの方策かと思う。 ○調布市では地域館ごとに予算があり、地域館で選書して買っている。多摩市では、地域館からも購入のリクエストは上がってくるが、本館で選書・見計らいをしている。ある程度、館籍を付けて再配置することも必要かと考えている。 ○問題として顕在化しているかはわからないが、ベストセラーを早く読みたいという要望はある。多摩市では、抑えてはいるが20冊くらいまで購入して要望に応えている。 ○市民から要望があれば購入するのか。そういったことが厚みのある蔵書構成になるという論点とは一致しないのではないかと。要望があればどんな本でも購入するか、リクエストが年1回でも研究的に必要なだから購入するか等、多摩市がどのような基準で蔵書を集めてゆくか議論しておいたほうが良い。 	<p>学校図書館の特徴や課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館には全校司書を配置していて、各学校で工夫をこらしている。市立図書館と学校図書館のシステムはつながっていて、学校図書館から市立図書館の調べ学習につかう資料などの検索ができる。 ○市立図書館から学校図書館に資料を移管して児童・生徒が貸出を受けることができる。 ○また、学校図書館司書の研修を市立図書館職員が出向いて行っている。 ○「ほんともフェスタ」では学校司書の取り組みを1校1枚パネル展示をしていただいた。 ○学校図書館の活動は活発で、市立図書館との連携もできていると考えている。 ○学校図書館との連携については『多摩市の図書館平成26年』にあるが、予算については記載されていない。バックデータを提供してほしい。